

「学び続ける力」

主幹教諭 安達 雅美

2月も中旬になり、指導をまとめる時期に入ると共に卒業式練習が始まりました。4月の始業式・入学式がまだまだ新鮮ですが、時間の経過の速さと改めて尊さも感じています。

1月のベーシック講座では、「肢体不自由児者の生活～社会で活躍する本人・保護者から～」というテーマで、3名の特別支援学校の卒業生と保護者の方たちに、在学中のこと、現在の生活、将来への思いをリアルな語り口でご講演して頂きました。保護者のおひとりからは、学びの場は学校で終わりではなく、卒業後も様々な人のつながりで続けることができる、とのお話がありました。私自身、既に成人の方々と「よさこい」などの活動を通して、学び続け進化する様子を目の当たりにしてきました。メンバーの一人に活動への熱い気持ちは充分にあっても人前はとても苦手で、話しかけると、目をそらし恥ずかしそうに頷く程度の学生がいました。そんな彼が変わったのは、熱心な練習もありますが、観衆の声援が彼の心を揺さぶったのだと思います。演舞の回を重ねるごとに練習してきたありったけの成果を力いっぱい披露する様になりました。次第に会の運営について発言し、手伝いをすすんで引き受ける様子も見られ、会の運営になくてはならない存在になりました。

また、もう一人の卒業生からは、社会は楽しいことばかりではないけれど、それも含めて僕・私の人生だと語る底力にまさに生きる力を感しました。そうした彼らの背後には、「その人らしさ」を理解し、自己決定を肯定的に応援する支援者の存在がありました。住みたい街で、支援を受けながら自分らしい暮らしを実現させている先輩たちの姿から、本校の教育の柱である「生きる力の五要素」にプラスをして、「学び続ける力」の大切さに気付かされた大変貴重な機会でした。

今年度の全体懇談でご説明させて頂いた「生きる力の五要素」は、各学部の授業はもちろんのこと初任段階の先生の授業研修に至るまで浸透しています。

本校を卒業して良かったと思って頂ける様に、今回、先輩の話から学ばせて頂いた秘訣を皆で共有し、授業づくりにしっかり込めていきたいと思っています。